

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	人形劇
----	----	----	-----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	かぶしががいしゃ にんぎょうげきだんむすびざ		団体ウェブサイトURL
	株式会社人形劇団むすび座		https://www.musubiza.co.jp/
代表者職・氏名	代表取締役 大野正雄		
制作団体所在地	〒 459-8001	最寄り駅(バス停)	名鉄名和駅
	愛知県名古屋市長区大高町字川添86		
電話番号	052-623-2374		
ふりがな 公演団体名	にんぎょうげきだん むすびざ		団体ウェブサイトURL
	人形劇団むすび座		https://www.musubiza.co.jp/
代表者職・氏名	代表 大野正雄		
公演団体所在地	〒 459-8001	最寄り駅(バス停)	名鉄名和駅
	愛知県名古屋市長区大高町字川添86		
制作団体 設立年月	1967年1月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役:大野正雄 取締役:永草友子・長田明子 監査役:垣内裕子	劇団員38名(制作部8、総務部4、演技部26) 加入の条件:劇団の実施する入団審査に合格すること	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	吉田明子
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	古田克司
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	puppet@musubiza.co.jp		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>昭和42年 東海地方で初のプロの人形劇団として、人形劇団むすび座創立。その後一貫して、幼稚園・保育園・小学校等、子どもが生活する場所での公演を中心に活動が続ける。 昭和49年 法人格を取得し株式会社人形劇団むすび座設立。 昭和63年「世界人形劇フェスティバル'88 in名古屋」(国内外より延10万人が参加)の事務局として中心的な役割を果たす 昭和58年より海外公演を開始。平成28・30年は韓国に招聘され、『ピノキオ』でソウル芸術の殿堂他で8ヶ所30公演を実施。</p> <p><文化庁舞台芸術創造活動活性化事業>採択実績 平成29年度・令和2年度『チト～みどりのゆびをもつ少年～』 平成30年度『オーケストラの生演奏で贈る-音楽人形劇-ピノキオ』 令和元年度『オズのまほうつかい』</p> <p><厚生労働省社会保障審議会 特別推薦作品>(平成26年以降) 平成26年 『ピノキオ』『父と暮せば』 令和元年『オズのまほうつかい』『かくれ山の大冒険』 令和3年 『チト みどりのゆびをもつ少年』</p> <p><受賞歴> 昭和63年度 名古屋市芸術奨励賞 平成20年度 愛知県芸術文化選奨文化賞 平成29年度 第33回芸術創造賞(名古屋市文化振興事業団) 平成26年度 児童福祉文化賞『ピノキオ』 令和4年度 児童福祉文化賞『チト みどりのゆびをもつ少年』 令和6年度 第1回日本みどりのゆび舞台芸術賞</p>		
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>昭和44年より現在まで途切れなく小学校公演を実施。その累計公演数は6,099回に上る。</p> <p>令和2年度:620公演(観客数:70,000名) 小学校公演:48/幼稚園・保育園等公演:507/その他公文協・自主公演等:65 令和3年度:804公演(観客数:125,000名) 小学校公演:39/幼稚園・保育園等公演:636/その他公文協・自主公演等:129 令和4年度:1,037公演(観客数:146,000名) 小学校公演:120/幼稚園・保育園等公演:742/その他公文協・自主公演等:175 令和5年度:959公演(観客数:130,000名) 小学校公演:92/幼稚園・保育園等公演:659/その他公文協・自主公演等:208</p>		
<p>特別支援学校等における 公演実績</p>	<p>平成13～16年度連続 愛知県立港養護学校 平成16～27年度連続 三重県立養護学校北勢きらら学園 平成16年度 愛知県立三好養護・安城養護・豊田市立豊田養護学校 岐阜県立中濃特別支援・飛騨特別支援学校 令和5年度 羽島市発達支援センター</p> <p><文化庁 子供育成推進事業・文化芸術体験事業等での実施> 平成22年度～29年度『ピノキオ』『アラビアンナイト』等で計7校 『アラビアンナイト』 令和元年度 千葉県立銚子特別支援学校、山梨県立あけぼの支援学校 『オズのまほうつかい』 令和2年度 高知若草特別支援学校、宇都宮大学共同教育学部附属特別支援学校 令和4年度 青森県立青森豊学校、三重県立養護学校北勢きらら学園 令和6年度 北海道拓北養護学校、岩手県立盛岡みたけ養護学校 『かくれ山の大冒険』 令和4年度金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/2yRpion-NQ8</p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p>なし</p>
		<p>PW:</p>	<p>なし</p>

別添	あり
----	----

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 人形劇団むすび座】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	-

企画名	自己肯定感を育む人形劇「オズのまほうつかい」 ～自分を好きになる冒険の旅～
-----	---------------------------------------

企画のねらい	<p>★自分を好きになってほしい 本作品でドロシーと共に旅をする、かかし・ブリキ・ライオンはみな、“自分は不完全でだめな存在”だと思っ込んでいます。そんな彼らに寄り添い、“一人一人の存在がそのまま大切なのであり、完全な存在になる必要はない”ことを描きます。 登場人物たちが自分の価値に気づいていく姿を通して、「あなたはあなたのままで良いんだよ」というメッセージを送ります。それにより、子どもたちが自分の価値に気づき、自分を好きになってほしいと願っています。</p> <p>★他者を理解し社会の多様性について考えてほしい ドロシーたちは自分とは全く違う存在と出会った時、お互いを否定し排除するのではなく、最初はけんかをしながらも、協力し合って困難を乗り越えていきます。そしてお互いにかけてえのない大切な仲間となります。 私たちの社会には様々な個性や価値観が存在することを伝え、子どもたちが「自分ならどうするだろう」と考えることで、他者を理解し社会の多様性について考える契機としてほしいと願っています。</p> <p>本作のテーマである「自己肯定感」は、学校教育においても重要視されており、本作は「自分の価値や、仲間との関係性とその変化」を中心に描いています。そのため、“全児童が観劇する”という共通体験を通し、「自分を含めた一人一人が大切な存在である」とことや「友達の大切さ・仲間作り」についてを、子どもたちがクラス等で話し合い、考え合うことにより、共生社会実現への寄与が期待できます。</p>
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

演目概要・演目選択理由	<p><ものがたり> 家ごと竜巻に巻き上げられ、オズの国にやってきたドロシーとトトは、悩みを抱えたかかし・ブリキ・ライオンと出会いました。4にんとトトは、どんな願いも叶えてくれるという「オズ大王」に会う旅にでかけます。かかしは脳みそ、ブリキは心、ライオンは勇気をもらうため。ドロシーは、我が家に帰るために…。</p> <p>★主人公たちを「子ども」に設定 当作品の脚色は2013年斎田喬戯曲賞他数々の賞を受賞し、等身大の子どもたちの描写と社会に対する深い洞察力に定評のある篠原久美子氏。 演出はカミングアウトしているゲイの劇団「フライングステージ」の代表であり、細やかで鋭く深い人間観察と、様々なマイノリティを包み込み、一人一人の個性に寄り添った温かな作品創りに定評がある関根信一氏。 このお二人をお迎えし、本作ではドロシーだけではなく、かかし・ブリキ・ライオンも、子どもとして描きました。主人公たちを、自分に自信がなく自分はダメだと感じている子どもとしたことで、「オズの魔法使い」の世界は、より観客の子どもたちに近づきました。ぶつかり合いながらも友達になっていく過程も親近感をもってご覧いただけます。</p> <p>★明るく軽快な音楽に乗せたダイナミックな舞台 卓越した人形遣いに定評がある、むすび座の人形操作技法と、俳優自身のパフォーマンス(ダンス等)が融合された、ダイナミックで疾走感のある舞台。 また、明るく軽快な音楽に乗せた軽やかな舞台上で、子どもたちの心を惹きつけます。</p> <p>★1体の人形を3人で扱う「三人遣い」の様式で表現 本作では、1体の人形を3人で扱う「三人遣い」(文楽の技法)を用います。この技法は、相手の気持ちを想像し、力と息を合わせることで成立します。 協働することにより人形に命を吹き込み、まるで生きているかのように人形を遣う俳優たちの姿を通し、コミュニケーションや協働の大切さ、そしてそれらが大きな力となることを伝えます。</p>
-------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>★専門家による高い評価 児童福祉文化財「特別推薦作品」(厚生労働省推薦)に選定され、芸術文化振興会の舞台芸術創造活動活性化事業にも採択された本作は、事業実施後の公演調査レポートで以下の大変高い評価をいただきました。 「他人と違う自分を認める自己肯定と、悲しみや回り道にも全てに意味があるという人生の肯定に重点を置いて脚色し、等身大で魅力的なキャラクター造形と精緻で秀逸な台詞によって、現代を生きる子供だけでなく大人にも突き刺さる応援メッセージを持った強靱な作品とした。 (中略)かかしやブリキ、ライオンなども子供として造形したことにより関係性がシンプルとなり、観客の子供たちとの接点をうまく探るキャラ設定が評価できる」。</p> <p>以上を踏まえ、優れた芸術性と高い教育的効果を併せ持った本作は、本事業の効果を向上させるのに最適であると考え、この演目を選択しました。</p>														
児童・生徒の参加又は体験の形態	<p><共演形態>自分だけの人形をつくり、動かして表現 事前のワークショップで、子どもたちが想像力・創造力を駆使した自由な発想で人形を作り、劇中の歌を歌いながら動かす練習をします。 本番では、子どもたちが自作の人形を手に登場。俳優たちと共に踊り、歌いながら共演します。</p> <p><公演終了後>鑑賞後の交流によって人形劇への興味をより深く 子どもたちの退場時に、俳優たちが人形を持ち交流しながら、子どもたち全員を見送ります。 また、学校さんに時間的な余裕がある場合は、終演後に以下の交流の実施が可能です。 ①子どもたちから感想や質問等を聞く、人形劇の手法や舞台構造を説明するなど、子どもたち全員との交流の時間をもつ ②バックステージツアー(舞台の裏側の見学) ③片付けを手伝ってもらう(高学年対象。安全に配慮して行います)</p>														
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	30名(舞台の前で共演する児童数)												
		鑑賞人数目安	500名												
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>人形劇「オズのまほうつかい」</p> <p>原作=ライマン・ボーム 脚色=篠原久美子 演出=関根信一 美術=宮武史郎・小辻賢典 音楽・音響=ノノヤママナコ 振付・振付指導=LONTO・服部哲郎 照明=若狭慶大</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>														
出演者	こつじまさのり、高光浩一、野瀬葵、長谷川真代、村尾梨佳、三屋自然、渡辺智美、和田真琴人														
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<p>吉田明子(制作): 1984年入団。「西遊記」「ピノキオ」「父と暮せば」「チト」「オズのまほうつかい」等、当団体の創立記念作品・受賞作品などを数多く制作。2017年〇夫人児童青少年演劇賞受賞。日本児童・青少年演劇劇団協同組合代表理事/(一社)国際児童青少年舞台芸術協会日本センター理事/NPO法人国際人形劇連盟日本センター理事他。</p> <p>篠原久美子(脚色): 1999年日本劇作家協会優秀新人作品に選出。2000年文化庁舞台芸術創作奨励賞佳作。2010年演劇教育賞・特別賞受賞。2013年斎田喬戯曲賞他、数々の賞を受賞。各地で中高生・一般向けの「劇作ワークショップ」も実施。紛争地域の子どもたちの支援を行う(一社)ピースセルプロジェクト代表理事。</p> <p>関根信一(演出): 演出家、劇作家、俳優。劇団フライングステージ代表(1992年～)。1997年池袋演劇祭大賞。2006年サンモールスタジオ最優秀作品賞と最優秀女優賞受賞。2009年～2012年東京都杉並区立富士見丘小学校演劇授業 卒業公演構成・演出。</p>														
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">出演者:</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">8 名</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">スタッフ:</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">2 名</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">合計:</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">10 名</td> </tr> </table>	出演者:	8 名	スタッフ:	2 名	合計:	10 名	運搬	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">積載量:</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">2 t</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">車長:</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">7 m</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">台数:</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">1 台</td> </tr> </table>	積載量:	2 t	車長:	7 m	台数:	1 台
出演者:	8 名														
スタッフ:	2 名														
合計:	10 名														
積載量:	2 t														
車長:	7 m														
台数:	1 台														

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	9:00	9:00~11:30 共演リハーサル 11:30-12:15	13:30~ 15:00	10分	15:00~ 16:45	17:00

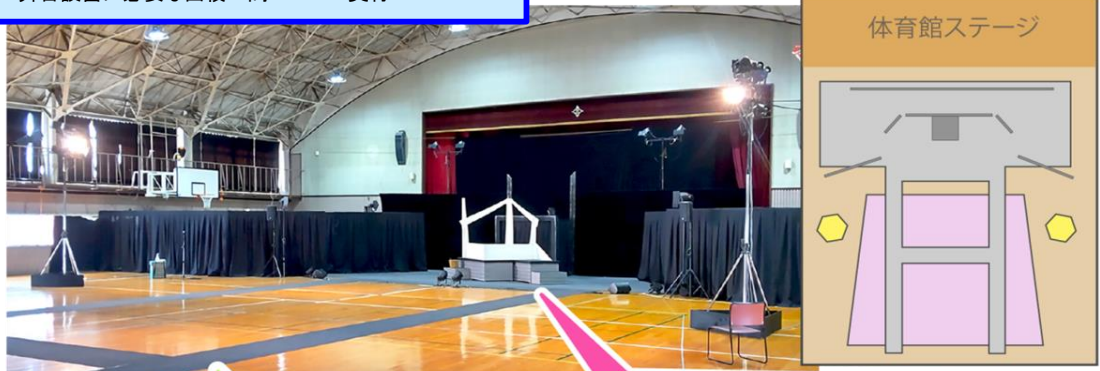
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期について は、採択決定後に確認し ます。(大幅な変更は認め られません)	6月	7月	8月	9月
				5日
	10月	11月	12月	1月
	13日	13日	12日	5日
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計	48日

舞台イメージ

- ・体育館のステージは使わず、フロアに舞台をつくります
- ・客席内にカーペットで花道をつくります
- ・舞台設営に必要な面積＝間口14m×奥行8m

- 舞台(カーペット)
- 舞台装置(幕・イントレ)
- 客席 ◊ 照明スタンド



公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)



※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

花道をつかって
子どもたちの目の前へ
人形がやってきます

等身大の人形が
舞台いっぱい
駆けまわります



共演時の様子 事前のワークショップで作った人形を操りながら舞台に登場！振付に合わせて踊ります！
* 別添 公演に係るビジュアルイメージ(汎用チラシ・舞台写真)があります

著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合 権利者名		許諾確認状況	

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 人形劇団むすび座 】

ワークショップのねらい	<p>★舞台では、命を吹き込まれ、まるで生きているかのように動く人形ですが、その裏には人形遣いたちの技術やチームワークが隠されています。子どもたちが実際に人形を動かしてみることで、人形の重さを体感し、生きているように動かすことの難しさを身をもって体験します。そして「三人遣い」を体験することで、息を合わせて協働し、協力し合うことの大切さ、チームワークやコミュニケーションの重要性を実感します。</p> <p>★個々の感性で自由に人形を製作することで、発想力・想像力・創造力を育みます。</p> <p>★完成した人形を動かしてみることで、「もの言わぬモノ」に命が宿り、表情が見えてくることを発見・体験し、人形で表現する楽しさ、面白さを実感します。</p> <p>★集団で演技することにより、バランス感覚や協働・自発性・協調性・コミュニケーション等を学び、達成感、充実感を得ます。</p> <p>ワークショップを通して得たこれらの経験によって、本番の鑑賞の際、より深い興味をもって鑑賞することができます。</p>		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	100名
ワークショップ実施形態及び内容	<p>所要時間:90分～100分程度(2時限)</p> <p>★むすび座の「三人遣い」を体験しよう！ むすび座の「オズのまほうつかい」は、文楽の様に1体の人形を3人で遣う「三人遣い」の様式を取り入れています。その「三人遣い」の操作方法や人形の材質・構造についての説明を行い、実際に「三人遣い」を体験していただきます。</p> <p>★自分だけの人形を作って動かしてみよう！ ①オズの国の住人「マンチキン」人形をつくってみよう！ 「マンチキン」は、竜巻に飛ばされてオズの国に着陸したドロシーが初めて出会う、オズの国の住人です。本作に登場するマンチキンは、平面を組み合わせてつくられた人形で、「ペーパーサート」と呼ばれています。劇中に登場するマンチキンと同じ仕組みで動くペーパーサート人形を作ります。(※材料は劇団で用意します)</p> <p>②作った人形を動かしてみよう！ 作ったマンチキン人形を実際に動かしてみます。そして、人形に合わせた効果的な表現方法があることを学びます。 その後、共演するシーン「マンチキンたちがドロシーを歓迎し見送る場面」の、空間での動き(振付)と人形の表現方法を練習します。</p> <p>*本公演での共演に向けて ワークショップ参加児童は、本公演当日に共演シーンのリハーサル(1時限:45分程度)を行います。</p> <p><特別支援学校で実施する場合> 子どもたちひとりひとりの状況に合わせ、①人形の素材やパーツを改良する②人形の動かしやすさを追及する③本番での共演の仕方を工夫する等により、独自のワークショップと共演プログラムを実施し、子どもたちにとって実りある時間とします。</p>		



↑劇中に登場する“マンチキン”たち



その他ワークショップに関する特記事項等

↑子どもたちが作る“マンチキン人形”の見本↓



↑“三人遣い”体験の様子



↑共演のリハーサルの様子

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名

人形劇団むすび座

】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <p>子どもは感受性も想像力も非常に豊かで、瑞々しく柔軟な心を持っています。そんな子ども時代に、豊かで質の高い生の舞台芸術に接することはとても大切なことです。しかし、日本ではまだその重要性が一般的に認識されておらず、特に子どもの場合は、舞台芸術に興味があり、鑑賞を望んだとしても、親の意向や家庭の経済状況等に左右されてしまいます。また、生の舞台芸術に出会えずその素晴らしさを知らないまま、子ども時代を終えてしまう子どもたちが数多く存在するのが現状です。</p> <p>この「学校巡回公演」は、子どもたちが家庭の状況や居住地等に関わらず、等しく質の高い文化芸術に触れることができる稀有な事業であり、当団体は、子どもたちに良質な舞台を届け、一人でも多くの子どもたちが文化芸術を享受できるよう、継続的に本事業に申請しています。</p> <p>本作品「オズのまほうつかい」を観た子どもたちは、驚きと感動で胸を震わせ、作品に込められたメッセージを受けとり、自分の中に生まれた感情を味わうでしょう。それらは、子どもたちの想像力・創造力・発想力・コミュニケーション能力を刺激し、豊かな育ちにつながります。</p> <p>また、本品のテーマである「自己肯定感」は、学校教育においても重要視されているテーマであり、学校現場の先生方と共に取り組む本事業において最適であると考えました。</p> <p>加えて、ワークショップに参加した子どもたちは、自由な発想で人形を作る面白さを知り、人形を使った表現の楽しさを感じます。そして本番当日は、出演の前の緊張感と出演中の高揚感を体験し、客席からの満場の拍手を浴び、充実感と達成感を味わうでしょう。</p> <p>また、舞台上で輝いている子どもたちの笑顔や、彼らが体験している様々な感情は、観客席で観ている子どもたちにも強く伝わります。観客席の子どもたちにとっても、上級生や同級生が舞台の上で輝いている姿を観ることは、通常の観劇にはない貴重な“文化芸術体験”となります。</p> <p>これらの体験は、将来の芸術家の育成や芸術鑑賞能力の向上につながります。子どもたちに最上の体験を届けるため、全力で誠実に本事業に取り組めます。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p><u>1)各学校の状況やニーズに合わせたアプローチ</u></p> <p>私たちはこれまで、学校現場に演劇的手法を取り入れている先生方の勉強会や、実演家が学校で演劇教育を行うための講座などに積極的に参加し、演劇教育の手法や、先生方・子どもたちへのアプローチの仕方などを学んできました。また、実際に学校現場に出かけて行き、先生方・子どもたちを対象にしたワークショップも数多く行っています。</p> <p>それらの豊富な経験を生かし、劇団からの一方的な押し付けにならないように先生方のご希望やニーズを丁寧にお聞きして事業を実施します。そして本事業を初めて実施される学校さんも容易に理解していただけるよう、積極的かつ柔軟にアプローチしていきます。</p> <p><u>2)ワークショップの前に各学校を訪問し、趣旨説明と打ち合わせを実施(希望校)</u></p> <p>希望される学校さんには、ワークショップ実施の前に自主的に各学校を訪問し、本事業が子どもたちにとってよりよい体験となるように打ち合わせを行います。その際、写真入りのスタディガイド(ワークの内容・タイムスケジュール・人形の作り方等を記載)や、ワークで作る人形の見本も持参します(事前に訪問しない場合は、お電話・メール・郵送などで綿密な打ち合わせを行います)。</p> <p>事前に先生方と十分に話し合うことで、本事業の目的やワークショップの必要性等を具体的にイメージしていただくことができ、本事業への理解が飛躍的に深まります。また、その際に配慮が必要な子どもの状況についても時間をかけて丁寧に伺い、必要十分な対応を行います。</p> <p>また、ワークショップは、主に本公演に出演する俳優・スタッフが行います。そのため、本公演で共演する子どもたちは、ワークで出会った俳優・スタッフと再会し、安心してのびのびと演じることができます。実務的な面においても、ワーク実施時に当事者が会場の下見や詳細な打合せを行っているため本公演をスムーズに開催する事ができます。</p>
----------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

リンク先

No.2

【公演団体名

人形劇団むすび座

】

公演に係るビジュアルイメージ(汎用チラシ・舞台写真)

公演に係る
ビジュアルイメージ



大切な仲間となる、ドロシー、
かかし、ブリキ、ライオン

ものがたり

ドロシーは ある日、家ごと竜巻に巻き上げられて
飼犬の**トト**と一緒にオズの国にやってきました
そこで出会った3にんの友だち

かかし、**ブリキ**、**ライオン**

4にんとトトは、どんな願いもかなえてくれる

「偉大なオズの魔法使い」に会うために旅に出ます

かかしは脳みそ! ブリキは心! ライオンは勇気! をもらうため

ドロシーは、我が家に帰るために...



オズの まほうつかい

スタッフ
脚色 / 篠原久美子

むすび座創立50周年記念作品「チト みどりのゆびをもつ少年」脚色。
等身大の子ども像の描写と社会に対する深い洞察力を持つ。

演出 / 関根信一 (劇団フライングステージ)
カミングアウトしているゲイの劇団「劇団フライングステージ」の代表。細やかに鋭く深い人間観察と、様々なマイノリティを包み込み、一人一人の個性に寄り添った温かな作品創りに定評がある。東海地方では劇団うらご「わたしとわたし、ぼくとぼく」も作・演出。

美術 / 宮武史郎 小辻賢典

音楽 / ノヤママナコ (マナコプロジェクト)

振付 / LONTO (ラストラダカンパニー)

服部哲郎 (afterimage)

衣装 / 長谷川真代

照明 / 若狭慶大 (Lightbox)

宣伝美術 / 杉江智子 (デザインキッズ)

写真 / 服部義安

制作 / 吉田明子 伊藤博美



むすび座の〈オズのまほうつかい〉は
ドロシーだけではなく、かかしもブリキもライオンも子どもです。
3にんは自分に自信がなく自分を好きになれません。
そしてエメラルドの都に行けばオズの魔法で悩みが解決して
自分を好きになることができると信じています。
...でもそれは本当に魔法で叶えられるのでしょうか？



オズ大王とドロシーたち